



第57回北海道医療ソーシャルワーク学会

ご案内

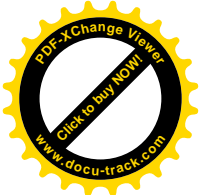
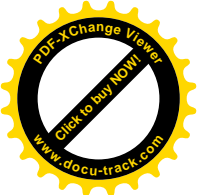


大会テーマ

イノベーション ソーシャルワークの可能性

開催日時：2014年5月17日（土）～5月18日（日）

開催場所：ホテル日航ノースランド帯広（5/17）・とかちプラザ（5/18）





第 57 回 北海道医療ソーシャルワーク学会

大会テーマ

イノベーション ～ソーシャルワークの可能性～

<大会テーマ>

平成 25 年 8 月に発表された「社会保障制度改革国民会議報告書」では、従来の「治す医療」から、QOL を重視した「治し・支える医療」への転換が提言されました。超高齢社会に伴う医療需要の量的増加や疾病構造の変化は、医療サービスや介護サービスの課題のみならず、住まいや移動、食事など生活全般にわたるまちづくりの問題として総合的に捉えるべきという考え方となりました。

疾病から派生した生活課題の解決にあたる我々医療ソーシャルワーカーは、保健医療機関に所属しながらもこの時代に対応した活動が求められます。つまり、クライアントの well-being を増進していくためには、これまでの概念だけに捉われず、新たな切り口から地域全体をアセスメントし、その中から新たな価値を創造して社会を変革していくという活動も必要とされるでしょう。それを実践できるのは社会科学的視点を持つ我々医療ソーシャルワーカーであることを改めて認識し、これまで積み上げてきた実践と新たなソーシャルワークの可能性について、本学会を通して皆さんと議論したいと思います。

主 催	一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会
開催主管	一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会東支部
日 程	2014 年 5 月 17 日（土）～18 日（日）
会 場	(5/17) ホテル日航ノースランド帯広 〒080-0012 帯広市西 2 条南 13 丁目 1 番地 TEL 0155-24-1234 (5/18) とかちプラザ 〒080-0014 帯広市西 4 条南 13 丁目 1 番地 TEL 0155-22-7890

学 会 長	高杉 美紀（リハビリデイ・ポシブルおびひろ西）
運営委員長	外山 史教（介護老人保健施設 ヴィラかいせい）

大会 Facebook ページ：<https://www.facebook.com/hokkaido.higashi>

当協会ホームページ URL：<http://www.hmsw.info/>



後 援

北海道・帯広市・一般社団法人 帯広医師会・一般社団法人 十勝医師会・公益社団法人 北海道看護協会・公益財団法人 北海道健康づくり財団・社会福祉法人 北海道社会福祉協議会・社会福祉法人 帯広市社会福祉協議会・財団法人 北海道難病連・公益社団法人 日本医療社会福祉協会・特定非営利活動法人 北海道ソーシャルワーカー協会・公益社団法人 北海道社会福祉士会・北海道精神保健福祉士協会・公益社団法人 北海道作業療法士会・公益社団法人 北海道理学療法士会・北海道言語聴覚士会・一般社団法人 北海道介護福祉士会・一般社団法人 北海道精神障害者家族連合会・北海道認知症の人を支える家族の会・北海道老人保健施設協議会・北海道地域包括・在宅介護支援センター協議会・一般社団法人 北海道介護支援専門員協会・北海道訪問看護ステーション連絡協議会・十勝毎日新聞社・北海道新聞社・読売新聞北海道支社・朝日新聞北海道支社・北海道医療新聞社・北海道放送・札幌テレビ放送・北海道テレビ放送・北海道文化放送・テレビ北海道・FM-JAGA・AIR-G ` エフエム北海道・FMノースウェーブ

(順不同)

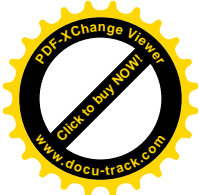
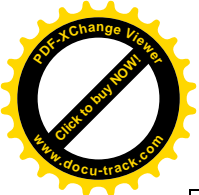
学会プログラム

5月17日(土) 会場：ホテル日航ノースランド帯広 ノースランドホール

	12:30~	13:15~	13:45~		15:30~	16:30~
ノースランドホール BCD	受付	開会式	基調講演	休憩	一般演題 (口演)	
ノースランドホール A						定期総会
一般演題 (ポスター)						
18:30~懇親会 (ノースランドホール BCD)						

5月18日(日) 会場：とちちプラザ レインボーホール

9:30~	9:50~	11:00~	12:30~
	一般演題 (口演)	教育講演	閉会式
一般演題 (ポスター) クエスチョンタイム 9:30~9:45			



基調講演 5月17日 13:45~15:15

座長：関 建久（一般社団法人北海道医療ソーシャルワーカー協会 会長）

『イノベティブでないソーシャルワークは ソーシャルワークじゃない』

講師：湯浅 誠（社会活動家）

講師略歴：



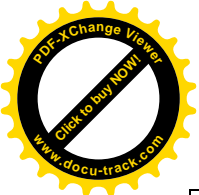
社会活動家。

1990年代より野宿者（ホームレス）支援に携わる。2008～09年年末年始の「年越し派遣村」では村長を務める。2009年から2012年まで通算2年間、内閣府参与を勤める。

東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学。1969年生。

主な著書：

- ・『反貧困』（岩波新書、2008年、第14回平和・協同ジャーナリスト基金賞大賞、第8回大仏次郎論壇賞）
- ・『どんとこい！貧困』（イーストプレス「よりみちパン！セ」シリーズ、2009年6月刊）
- ・『ヒーローを待っていても世界は変わらない』（朝日新聞出版、2012年）など。



教育講演 5月18日 11:00~12:30

座長：高田 康範（足寄町役場福祉課）

『改正介護保険制度と医療ソーシャルワーク』

講師：結城 康博（淑徳大学総合福祉学部社会福祉学科教授）

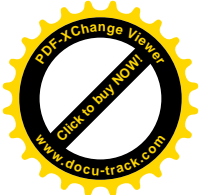
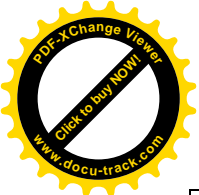
講師略歴：



1969年生まれ。淑徳大学社会福祉学部社会福祉学科卒業。法政大学大学院修士課程修了（経済学修士）。法政大学大学院博士課程修了（政治学博士）。社会福祉士・介護福祉士・ケアマネジャー。地域包括支援センター及び民間居宅介護支援事業所勤務経験をもつ。専門は、社会保障論、社会福祉学。

主な著書：

- ・『日本の介護システムー政策決定過程と現場ニーズの分析（岩波書店2011年）』
- ・『国民健康保険（岩波ブックレットNo.787）』（岩波書店、2010年）
- ・『介護入門ー親の老後にいくらかかるか？』（ちくま新書、2010年）
- ・『介護の値段ー老後を生き抜くコスト』（毎日新聞社、2009年）
- ・『介護ー現場からの検証』（岩波新書、2008年） など多数。



一般演題（口演）

5月17日（土）15：30～16：30

座長：金森 泰夫（道東勤医協ひまわり居宅介護支援事業部）

A-1 リハビリ転院が必要な骨折受傷高齢者の現状

～回復期リハビリテーション病棟対象疾患外の患者の退院支援事例から～

発表者：札幌徳洲会病院 森 典子（中央D支部）

共同研究者：上井 奈穂美、佐久 恵子、小中 瞳（札幌徳洲会病院）

高齢者の骨折患者の多くは、ADLの向上が認められない場合、在宅生活を送ることが可能になるまでの間、転院してリハビリを行う必要がある。その際には、リハビリが長時間できる回復期リハビリテーション病棟に転院するケースが多く、ソーシャルワーカーは院内においてその支援の中心的役割を担っている。

しかしながら誰しもが、回復期リハビリテーション病棟に転院できるわけではない。回復期リハビリテーション病棟には入院できる疾患が決められており、骨折部位が対象部位でなく、転院できないというケースもある。現在の制度では、回復期リハビリテーション病棟に入院できる対象が限定されており、高齢者が安心してリハビリを行う機会が、失われているのではないかとソーシャルワーカーは支援現場で感じることもあった。

回復期リハビリテーション病棟の対象外の疾患、主に上肢骨折では、下肢骨折と違い、自ら移動ができるため、一般的に在宅復帰がしやすいと考えられているが、実際に上肢骨折であっても在宅生活を送れないケースはある。SWの目の前に現れる患者は入院以前に生活課題を抱えていたり、独居であったりと、よりADLの向上が求められるケースが多く、現状の制度に対して違和感がある。本研究ではそういったリハビリ転院が必要な骨折受傷高齢者の現状を、退院支援事例をもとに考察していきたい。

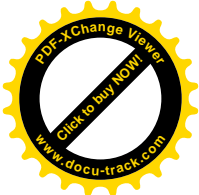
A-2 訪問相談を重視した先制的相談態勢の意義と成果

～受動的相談態勢を捨てるイノベーション～

発表者：足寄町役場 高田 康範（東支部）

共同研究者：保多 紀江、赤間 恵一、寺本 圭佑、田端 美智代、飯沼 舞、
豊島由、白澤 淳（足寄町役場福祉課総合支援相談室地域包括支援センター・足寄町国民健康保険病院）

相談の電話が来れば、丁寧に優しく相談に応じることは誰しも行う基本的態度である。しかしそれは、相談が来るのを待つという受動的な姿勢であり組織態勢であるともいえる。そのような態勢をもって相談が十分なものであるかどうか相談の流れとその結果から類推して、更により良い方法を模索した。しばしば、相談に来るのが遅きに失するという体験を味わうことがある。それは相談者の問題として帰結させることは一つの見識ではあるが、それとは別に相談を受ける側の態勢の在り方について熟考した。その結果、相談を早期にキャッチする手段と、相談に来てもらうのではなく、相手のいるところに向く訪問相談という手法を試みることにした。その意義と一部の結果について報告する。



A-3 脳卒中地域連携パスの効果と課題

発表者：道東脳神経外科病院 山崎 章（北支部）

共同研究者：関 建久、関 雅美、中浜 由衣（道東脳神経外科病院）

当地区では平成 20 年 6 月に脳卒中地域連携パスの運用を開始した。翌年からは脳卒中地域連携パスを含め、脳卒中急性期医療を担当する全ての医療機関から全ての脳卒中患者のデータを収集し、平成 21 年度よりオホーツク三次医療圏全ての脳卒中患者の実態を把握できるようになった。

このデータから、脳卒中地域連携パスのデータと三次医療圏における脳卒中患者全数の心身状態の差異を明らかにし、地域の脳卒中医療資源の量、必要なサービス及び脳卒中地域連携パスの課題について考察した

連携パスは連携の突破口として利用目的を拡大した活用がされるべきであり、連携パスに携わるソーシャルワーカーが地域の脳卒中診療の課題を浮かび上がらせ、不足している医療資源に対する対策、地域の医療資源の適正化を推進する全道的な取り組みが必要だと考える。

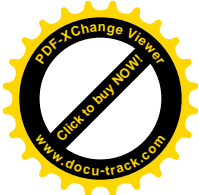
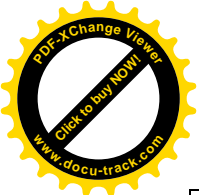
A-4 十勝における多職種連携の一例～「十勝連携の会」の活動から～

発表者：帯広協会病院 田巻 憲史（東支部）

共同研究者：高杉 美紀（ポシブルおびひろ西）、外山 史教（介護老人保健施設
ヴィラかいせい）、今野 智子（介護老人保健施設あかしや）、
池田 優（開西病院）

2009 年、介護保険制度に「医療連携加算」が加えられ、ケアマネジャーは医療機関や MSW に対して、どのような認識・理解をしているのかを知りたいと考え、退院時における介護支援専門員との連携について、十勝管内の介護支援専門員にアンケート調査を行った。この調査で、「ケアマネジャーは、欲しい情報を持っている看護職と連携を図っているが、うまくいかないと感じることがあり、MSW にその間を取り持って欲しい」「医療機関側に在宅の視点を持って退院後の生活のことも一緒に考えていく姿勢を見せて欲しい」という思いが強いことが分かり、「顔の見える関係作り」「多くの職種に在宅生活の視点を持ってもらうような働きかけ」などを今後の課題と挙げていた。

2010 年、同じ志を持つ、介護支援専門員、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、保健所の職員らと、「十勝連携の会」を結成し、十勝に合った保健・医療・福祉の連携の推進を検討してきた。この活動からの学びと MSW として「十勝連携の会」関わることの意義を、ある事例をもとに考察する。



一般演題（口演）

5月18日（日）9:50~10:50

座長：吉野 整子（道東勤医協すこやか居宅介護支援事業部）

B-1 医療機関に勤務するMSWの高齢者虐待に対する実態調査報告

発表者：札幌市手稲区第1地域包括支援センター 鴨崎 裕介（中央E支部）

共同研究者：藤田 修一、小野 真佐子、後藤 拓也（手稲区第1地域包括支援センター）、阿部 香織、谷口 知広、高村 亮太、谷口 絵美（手稲区第2地域包括支援センター）

平成18年に高齢者虐待防止法が施行され、地域包括支援センターは虐待の相談・通報窓口として行政と連携しこれまで対応してきた。高齢化率の上昇や周知の成果もあり、相談件数は年々増加傾向にあり、特に介護支援専門員や各種サービス事業所職員からの相談が目立っている。

一方、これまで医療機関からの相談・通報件数は他の経路に比べると非常に少ない現状である。そこで、医療機関に勤務するMSWを対象に、高齢者虐待対応の実際や意識についてアンケートにて実態を調査し、院内での高齢者虐待対応マニュアルや、高齢者虐待に関する研修の必要性やそのあり方について報告する。

B-2 視覚障害者の病院受診のバリアと支援

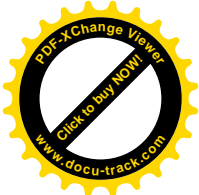
発表者：札幌徳洲会病院 上井 奈穂美（中央D支部）

共同研究者：小銭 寿子（名寄市立大学）、吉田 重子（北海道高等盲学校）、田中 理（ななえ新病院）

病院は、個人情報、コンプライアンス遵守などを目的とした多様な手続きが必要とされ、患者・家族へも説明・同意文書・署名などの手続きが求められる。

本研究は、視覚障害者が支援者なしには治療をスムーズに受けられない、または不都合があるという声を契機とする。医療機関の中の福祉職として、行動化する責任を感じている。①実態把握と問題提起のための病院アンケート調査。②シンポジウム「安心して病院にかかるために～視覚障害者にとってのバリアを考える～」を開催。参加した当事者、関係者からの声。③これら活動の過程による。視覚障害者の生活障害、生活上のバリア、多様性を学んだ。

様々な病気、障害を持つ人が利用する病院において、権利としての受療の機会について考察した。



B-3 防災訓練実施後の結果の検証

～当協会災害対策要綱等の実効性向上を目指して～

発表者：小樽中央病院 石田 潔（中央E支部）

共同研究者：上田 学（新さっぽろ脳神経外科病院）、釣賀 和也（総合在宅ケアセンターとうや）、松原 俊輔（介護老人保健施設 アートヒルズ）

当協会は昨年度から、医療福祉活動部に災害・防災ワーキンググループを設置し、2012年に策定された当協会災害対策要綱及び災害対策ガイドライン・災害時行動マニュアル（以下、「要綱等」という。）の運用について協議を重ねてきた。

これら要綱等に定めた災害時における対応が円滑且つ迅速に行うことができるかを検証し、要綱等の実効性を高めていくため、また当協会会員の防災意識の向上に資するため、防災訓練を2014年3月11日に実施した。

当研究は、防災訓練の実施過程を検証し、現状のおかれている課題を特定することで、より実効性のある当協会防災体制の構築を図ることを目的とする。

B-4 「真の実践力向上を目指して」

～保健医療分野における実習プログラミングワークシート改訂について～

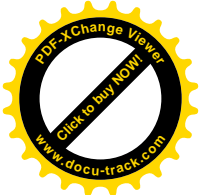
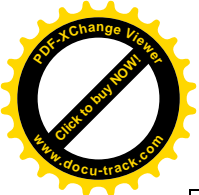
発表者：開成病院 本間 一憲（中央B支部）

共同研究者：医療福祉教育実習委員会、下倉 賢士（札幌南青洲病院）、山口 修史（フェリス東茨戸）、長野 正康（北樹会ケアプラン相談センター）、藤田 幸司（勤医協居宅介護支援事業所北白石）、宮崎 雪枝（JR札幌病院）、倉田 佳奈子（札幌ひばりが丘病院）、大村 真理奈（介護老人保健施設プラットホーム）、村上 令子（札幌南青洲病院）、菅 なつみ（札幌東徳洲会病院）、中塚 大介（介護老人保健施設オアシス21）、國田 ちとせ（柏葉脳神経外科病院）、但木 水紀（勤医協中央病院）、高橋 敦子（北星学園大学福祉実習相談室）、寺田 香（北翔大学）、巻 康弘（北海道医療大学）

実習指導において、「伝えておかなければならない」専門的な価値・知識・技術を実習プログラムに盛り込み、ある程度共通のものとする必要がある。

そこで当協会では、現場のスーパーバイザーが標準的に実習指導を行えるようにするため、2004年より実習プログラミングワークシートの作成を進めてきた。また、相談援助実習に保健医療機関が関わったことを踏まえ、2007年には実習プログラミングワークシート改訂を行っている。

現在では新カリキュラムに伴い、目標志向型となった実習には高い実践力が求められるようになった。このような背景の中で、当協会では保健医療機関での実習におけるさらなる実践力の向上を目標に実習プログラミングワークシートの改訂を行ったため、ここに報告する。



一般演題（ポスター）

5月17日（土）12：30～

クエスチョンタイム 5月18日（日）9：30～9：45

P-1 新人MSWが病棟他職種と関係を構築するための一考察 ～スクリーニングシート導入の考察～

発表者：手稲溪仁会病院 下山 聡子（中央E支部）

共同研究者：中田 早紀（イムス札幌消化器中央総合病院）、沼田 考広（イムス札幌消化器中央総合病院）、中山 宰歌（北祐会神経内科病院）、廣瀬 聡（心優会 野口病院）、吉田 みのり（北海道済生会小樽病院）、吉田 啓介（札幌第一病院）、宮嶋 千里（札幌第一病院）

MSWは他職種と関わる環境の中で日々業務を行っている。

その中でも我々新人MSWは他職種との関係性の中で「MSW」という専門職としての立ち位置や役割について日々葛藤し、様々な悩みを抱え、解決策を模索しながら業務を行っている。しかし、新人MSWの多くは、他職種との関係作りに困難を抱えているのではないかと予測される。

自分に知識が不足していることからくる自信のなさが原因で萎縮し、積極的に行動できていないのではないかと、また他職種が忙しそうに話しかけづらい等が主な理由として考えられる。

「他職種の専門性を知る」ことや、「依頼されたことをこなす」こと、「自分の知識や情報量を増す」こと、「積極的に他職種と関わること」等ができることで、自信のなさを克服し、新人MSWであっても早期に他職種と関係構築することができるのではないかと仮定する。

本研究では、新人MSWが早期に他職種と良好な関係構築を築き、業務を円滑に行うようにするためには、先輩MSWがどのように他職種と関係を構築し現在に至っているのかを調査するとともに、解決策を見出し今後の業務に活かすことを目的とした。

P-2 十勝脳卒中地域連携パス対象者の転帰から見る現状と課題

～維持期退院患者支援における多職種連携とMSWの役割～

発表者：帯広厚生病院 横山 理恵子（東支部）

共同研究者：大瀧 雅文（帯広厚生病院脳神経外科医師）、金元 信子、長岡 里奈（帯広厚生病院地域医療連携室看護師）

【背景】十勝二次医療圏では、2008年度より『十勝脳卒中地域連携クリニカルパス（以下脳卒中パス）』の運用を開始した。現在、急性期病院3病院と回復期病院4病院間で運用している。当院（計画管理病院）では、2012年度末までに脳卒中パス対象者939名中、回復期病院転院406名（43%）、自宅退院331名（35%）、死亡退院等109名（12%）、療養型転院・施設入所93名（10%）である。

【目的】維持期退院困難ケースの転帰から退院困難要因を検証し、今後の課題・問題点を明確にする。



P-3 過剰な抑制廃止へ向けて行った転院への影響調査報告 —WINWINの関係性構築へ向けて—

発表者：国立病院機構 北海道医療センター 保科 健（中央E支部）

退院支援の中の転院調整において、身体抑制の有無が転院先選定に影響を与えていることに気づく。抑制の状況が療養先選択を狭めているとしたら、クライアントの利益、自己決定の尊重に寄り添えないことになる。一方、安全確保の観点からやむを得ないものとして抑制が行われてきた。スタッフはジレンマを感じながらも安全確保のために仕方がないと納得させている側面もあると思われる。転院先が狭まるという現状は、ベッドコントロールや看護負担の軽減からも防ぐことが望ましい。患者にとってのQOL向上と自己実現、スタッフのジレンマ解消や負担軽減、ソーシャルワークの価値倫理の遵守。これらの達成へ向けて過剰な抑制を廃止することはWINWINの関係性構築に繋がると思われた。その具体化へ向けた根拠作りのために行った、「身体抑制が転院受入れに与える影響調査」について報告する。



ご案内

【参加手続き】

本学会では、参加手続きを「近畿日本ツーリスト」に業務委託しております。

- 1) 本学会に参加される方は、会員・非会員を問わず参加登録を行ってください。
- 2) 事前登録費は会員 4,000 円、賛助会員 4,800 円、一般 5,000 円、学生 2,000 円です。
学生料金については大学・専門学校等に在学中の方もしくは、2014 年 3 月卒業予定で、3 月 31 日までに申し込みされた方に限ります。
- 3) 事前登録は 4 月 21 日（月）まで、22 日（火）以降は当日参加受付となります。
- 4) 事前登録締め切り後、順次「予約回答・ご請求書」をお送りいたします。
書面をご確認のうえ、記載の期日までに代金を送金ください（振込手数料は参加者負担）
- 5) 当日参加登録料は 5,000 円です。
当日参加受付（ホテル日航ノースランド帯広 2F 学会受付）にお越しください。
- 6) 事前参加登録をされた方は、当日受付にてネームカード（参加証）とネームカードケースをお渡しします。

【懇親会】

場 所：ホテル日航ノースランド 2F ノースランドホール BCD

日 時：5 月 17 日（土）18：30～

参加費：4,000 円

人数に限りはありますが、当日参加も可能です。学会受付にお越しください。

【一般演題（口演・ポスター） 座長・演者へのご案内】

演題の募集は終了いたしました。

1 座長の皆様へ

- 1) 座長の受け付けはいたしません。担当セッションの開始 5 分前までに会場の「会場進行係席」に必ずご着席ください。
- 2) 担当セッションの進行はご一任いたしますが、終了時間は厳守してください。

2 演者の皆様へ

(1) 口演発表の皆様へ

1) 発表時間

発表 10 分、討論 4 分です。質疑応答は座長の指示に従ってください。

2) 発表方法

- ① 発表機材は PC プレゼンテーション（1 面映写）のみとし、以下のように対応いたします。発表時間を厳守してください。
発表データ（USB メモリまたは CD-R）の持参をお願いいたします。
- ② 画像枚数に制限はありませんが、発表時間内に終了するようにご配慮ください。
- ③ 発表中の画像操作は、演題に置かれたモニターを見ながら、ご自身でマウス及びキーボードを操作して画像をすすめていただきます。
- ④ 「次演者席」を設けますので、前演者が登壇されましたらご着席ください。



3) 発表データの受付と返却

受付場所：ホテル日航ノースランド帯広 2F 学会受付

受付時間：5月17日（土）12:00～13:00

※2日目の午前中の発表者も、上記受付時間に受付をお済ませください。

※受付を済ませた発表データ（USB・CD-R）は、その場で返却します。

4) 発表機材とデータの作成

- ① 口演発表は、パソコンによる発表に限らせていただきます。
- ② 会場で使用するパソコンはWindows7、PowerPoint2010がインストールされたパソコンを準備いたします。
- ③ 発表データは、USBメモリまたはCD-Rに保存してご持参ください。事前に最新のウイルス駆除ソフトで必ずチェックしてください。

(2) 一般演題ポスター発表の皆様へ

ポスター会場では「クエスチョンタイム」を設け、各自のパネルの前にて参加者と自由討論をいたします。

1) 貼付・クエスチョンタイム・撤去時間

貼付	クエスチョンタイム	撤去
5月17日（土） 11:30～12:30	5月18日（日） 9:30～9:45	5月18日（日） 12:30～13:30

※時間内に撤去されなかった場合は、事務局にて撤去、処分させていただきます。

2) 場所

5月17日（土）～ホテル日航ノースランド帯広 2F ロビー

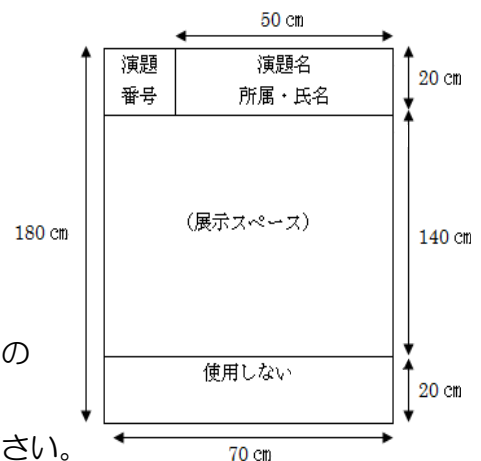
5月18日（日）～とちプラザ 2F ホワイエ

3) 討論について

ポスター発表者はクエスチョンタイム時間内に各自パネルにて待機し、参加者からの質疑に対応してください。

4) 展示方法

- ① パネルの大きさは右図の通りです。
演題番号は事務局で用意します。
演題名、施設名、発表者名を書いた20×50cmの用紙は各自でご準備ください。
- ② 演題番号を確認のうえ、貼付してください。
用紙のサイズや枚数に規定はありませんが、パネルの貼付スペース内に収まるようにまとめてください。
- ③ 画鋲は各パネルに備え付けてある物を使用してください。



※発表歴がある場合は抄録本文またはポスター内に発表された学会名等を明記願います。

【学会に関する問い合わせ】

介護老人保健施設 ヴィラかいせい 外山史教・丹羽裕香

TEL：0155-37-7200 E-mail：f_sotoyama@hakuai.org



3) 発表データの受付と返却

受付場所：ホテル日航ノースランド帯広 2F 学会受付

受付時間：5月17日（土）12:00～13:00

※2日目の午前中の発表者も、上記受付時間に受付をお済ませください。

※受付を済ませた発表データ（USB・CD-R）は、その場で返却します。

4) 発表機材とデータの作成

- ① 口演発表は、パソコンによる発表に限らせていただきます。
- ② 会場で使用するパソコンはWindows7、PowerPoint2010がインストールされたパソコンを準備いたします。
- ③ 発表データは、USBメモリまたはCD-Rに保存してご持参ください。事前に最新のウイルス駆除ソフトで必ずチェックしてください。

(2) 一般演題ポスター発表の皆様へ

ポスター会場では「クエスチョンタイム」を設け、各自のパネルの前にて参加者と自由討論をいたします。

1) 貼付・クエスチョンタイム・撤去時間

貼付	クエスチョンタイム	撤去
5月17日（土） 11:30～12:30	5月18日（日） 9:30～9:45	5月18日（日） 12:30～13:30

※時間内に撤去されなかった場合は、事務局にて撤去、処分させていただきます。

2) 場所

5月17日（土）～ホテル日航ノースランド帯広 2F ロビー

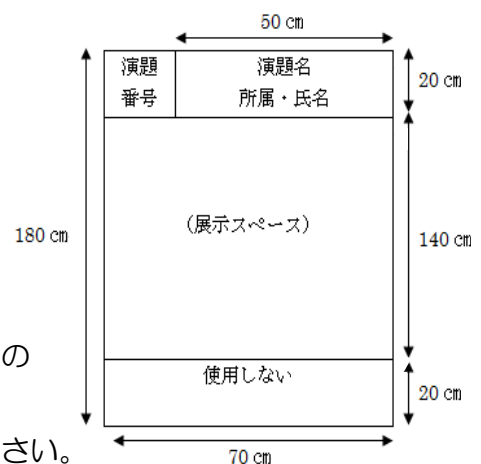
5月18日（日）～とちプラザ 2F ホワイエ

3) 討論について

ポスター発表者はクエスチョンタイム時間内に各自パネルにて待機し、参加者からの質疑に対応してください。

4) 展示方法

- ① パネルの大きさは右図の通りです。
演題番号は事務局で用意します。
演題名、施設名、発表者名を書いた20×50cmの用紙は各自でご準備ください。
- ② 演題番号を確認のうえ、貼付してください。
用紙のサイズや枚数に規定はありませんが、パネルの貼付スペース内に収まるようにまとめてください。
- ③ 画鋲は各パネルに備え付けてある物を使用してください。

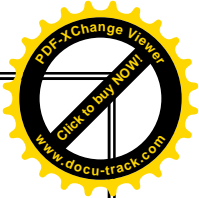
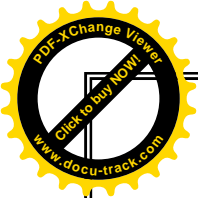


※発表歴がある場合は抄録本文またはポスター内に発表された学会名等を明記願います。

【学会に関する問い合わせ】

介護老人保健施設 ヴィラかいせい 外山史教・丹羽裕香

TEL：0155-37-7200 E-mail：f_sotoyama@hakuaikai.org



第 57 回北海道医療ソーシャルワーク学会 ～ 事前参加登録・懇親会・宿泊のご案内～

この度、道内各地から学会へご参加される皆様方の便宜を図るため、(株)近畿日本ツーリスト北海道が学会に参加される皆様の事前参加登録・懇親会・宿泊のお世話をさせていただくことになりました。
皆様方のご来帯を心よりお待ちしております。

事前参加登録

正・准会員：4,000円 賛助会員：4,800円 一般：5,000円 学生：2,000円

懇親会

懇親会参加費：4,000円

帯広市内の宿泊予約

以下3軒のホテルについて、5/16(金)～5/17(土)の2泊分をご用意しております。(1泊朝食付 税込 おひとり様料金)

ホテル名	タイプ	記号	1泊あたりの料金	備考
ホテル日航ノースランド帯広	シングル	AS	9,000円	JR 帯広駅南口より徒歩1分 学会・懇親会会場(5/17) 5/17(土)は、おひとり様1,000円/泊の追加となります。
	ツイン	AT	7,000円	
リッチモンドホテル帯広駅前	シングル	BS	7,000円	JR 帯広駅北口より徒歩1分
	ツイン	BT	6,000円	
ホテルレートイン帯広駅前	シングル	CS	5,800円	JR 帯広駅北口より徒歩2分
	ツイン	CT	5,700円	

ホテルレートイン帯広駅前につきましては、朝食無しの料金となりますが、ホテルでの無料朝食サービスがございます。

申込の流れ

別紙の申込用紙に必要事項を記入し、FAXにてお申し込みください。
受付確認後、弊社よりFAX又はE-mailにてご連絡いたします。
お申込後1週間が経過してもご連絡がない場合は、お手数をお掛け致しますが弊社宛お問い合わせください。

申込締切日：平成26年4月21日(月)

締切後、順次「予約回答・ご請求書」をお送りいたします。書面をご確認のうえ、記載の期日までに代金を送金ください。

お支払い方法

- 銀行振込
銀行振込ご希望の方は、申込締切以降お送りいたします「予約回答・ご請求書」に記載の口座宛、記載の期日までに送金をお願いします。振込手数料につきましてはお客様にてご負担ください。
- コンビニエンスストア店頭支払
全道の主要なコンビニエンスストアの店頭でお支払いいただけます。申込締切以降に専用の払込票をお送りいたします。収納代行手数料(400円)を加算しご請求いたします。

取消について

事前参加登録ならびに宿泊の変更や取消が発生した場合、弊社から発行の登録番号ならびに変更内容を記入の上、eメールもしくはFAXにてご連絡ください。お電話での受付はお受けいたしかねますのでご了承ください。
取消について以下の取消料を申し受けます。当支店営業時間外にご連絡いただいた場合、翌営業日の取扱とさせていただきます。

【事前参加登録・懇親会】

平成26年4月21日(月)以降の取消はできません。
ご入金後は理由の如何を問わず一切返金できません。

【宿泊】

10日前以降 8日前まで	7日前以降 2日前まで	前日	当日	当日 (無連絡不泊)
20%	30%	40%	50%	100%

お問い合わせ先

株式会社近畿日本ツーリスト北海道 札幌法人旅行支店
『第57回北海道医療ソーシャルワーク学会』担当デスク
TEL 011-280-8855 / FAX 011-280-2732
E-mail s-convention-1@or.knt-h.co.jp
営業時間 平日9:00～17:45 / 休業日 土日 祝祭日